

RSウイルス母子免疫ワクチンのご案内

公費接種について

2026年4月から国が定期接種として妊娠28～36週の方を対象に無料で受けられるようになりました。対象で希望される方は外来受診時に接種しますのでお申し出ください。37週以降は補助対象外となるため、健診のタイミングによってはワクチンのみの受診が必要になる場合があります。

当院の方針

希望者にのみ接種します。ご自身の判断で接種されなくても構いません。迷われる場合は医師または助産師にご相談ください。

当院での接種対象：妊娠32～36週

当日のワクチン申し込みの流れ

尼崎市・大阪市に住民票がある方 事前手続きは不要です。

上記以外に住民票がある方 当院で接種ご希望の場合、事前に住民票がある市町村での事前手続きが必要です。詳細は各市町村のホームページをご確認ください。事前手続きなしで接種されると全額自己負担となりますのでご注意ください。

RSウイルスとは

RSウイルスは乳幼児に多い風邪ウイルスの一つです。多くの場合は鼻水や咳などの軽い症状で自然に回復します。ほとんどの子どもは2歳までに一度は感染すると言われています。ただし生後6か月未満では細気管支炎や肺炎となり入院が必要になることがあります。日本では死亡するケースは非常にまれです。

RSウイルスの流行について

RSウイルス感染は以前は冬を中心に流行する季節性の感染症と考えられていましたが、近年は年によって流行時期が変動し、夏に流行する年もみられるようになっていきます。

母子免疫ワクチンの仕組み

妊娠中にワクチンを接種すると母親の抗体が胎盤を通じて赤ちゃんに移行します。これにより生後早期のRSウイルスによる重い呼吸器感染を減らす効果が期待されます。

臨床試験（第3相試験）

ワクチンの効果を確認する試験の結果は以下の通りです。

生後6か月以内に医療機関を受診する下気道感染	接種群 1.9%	非接種群 3.7%
入院が必要な下気道感染	接種群 0.6%	非接種群 2.0%

受診や入院のケースは減少していますが、その数は50人に1人弱程度で多くはありません。

ワクチンのメリット

- ・生後早期のRSウイルスによる重い呼吸器感染の減少
- ・入院の減少
- ・RSウイルス感染を防ぐことで将来の喘息発症の可能性を少し減らす可能性があります（結論は未確定）。

デメリット

現在までの臨床試験では大きな安全性の問題は確認されていませんが、比較的新しいワクチンのため今後さらに長期データが蓄積されていくと考えられます。

接種しない場合の予防

手洗い・手指衛生、兄弟の風邪症状への注意、流行期の人混みを避けるなどで感染リスクを下げることができます。

この資料は現在の医学的知見に基づいて作成しています。今後新しい研究結果により内容が更新される可能性があります。

参考情報：RSウイルスワクチン定期予防接種について | 尼崎市公式ホームページ

<https://www.city.amagasaki.hyogo.jp/kurashi/kenko/vaccination/1042555.html>